

## 名古屋クラシックツアー・シーズン3

▶2014.9.28▶名古屋・渥美半島・湯の山/愛知、三重

02

## 気軽に参加できる本格ラリー

text &amp; photo: Kazumi Bamba(馬場和実/ELSE DESIGN)

本格的なヒストリックカー・ラリーとして親しまれている1泊2日で行われるヒストリックカー・ミーティング。その姉妹イベントとして、気軽にクラシックカー・ラリーを体験できる1日のラリーが名古屋クラシックツアーだ。その名のとおり名古屋を起点に行われるラリーで、例年ルートの中に知多半島と渥美半島を結ぶカーフェリー「フラワーライン」を組み込まれてきた。しかし、このカーフェリー「フラワーライン」が9月末で航路廃止されるため、名古屋クラシックツアーで恒例となっていたカーフェリーの貸切運航も今回が最後となり、これまでの活躍をラリーで称えることにした。

澄み切った秋晴れの朝、70台のクラシックカーとモダン・スポーツカーが名古屋城二の丸駐車場に集合した。参加受付の後、ドライバーズ・ミーティングが行われた。今回は愛知県中警察の秋の交通安全キャンペーンに協力し、参加者に安全運転を心がけることを再確認したのちに、スタート地点となる名古屋の中心にある長者町織維街のメインストリートに移動。

スタート・ゲートでは、河村たかし名古屋市長に交通安全を祈願してもらいながら、参加車すべてにスターター・フラッグを振っていただいた。

参加車はAグループと、Bグループのふたつに分かれ、ラリーがスタートした。このグループ分けは、フェリーの積載台数の関係からで、Aグループは渥美半島から知多半島を目指し、Bグループは知多半島から渥美半島を目指し、どちらも最終的に鈴鹿山脈の東麗にあるアクアイグニスに設けられたゴールを目指すルートが組まれた。

途中4か所のスタンプ・ポイントと、ヒストリックカー・ミーティングと変わらぬ本格的な3連続と4連続のPC競技は、どちらのグループも共通だ。気軽に参加できるラリーといえど、100分1秒のタイムを競うだけに、参加者は真剣にアタックしていた。

PC競技を終えた参加車は、伊勢湾岸道路から東名阪道を使い四日市インターまで快適に移動し、そこから湯の山温泉にある癒しと食の総合リゾート「アクアイグニス」に設けられたゴールを目指した。

アクアイグニスに到着した参加者たちは、ひと休みのち食事を楽しみながら表彰式となった。とにかく参加者を楽しませることを身上とするヒストリックカー・ミーティングだけに、前回の松本で歌と踊りを披露してくれた、Rs キッズ・ダンスボックスが今回も出演し場を盛り上げてくれた。最後はヒストリックカー・ミーティングで恒例となったサンパが用意されており、参加者全員を巻き込んで大いに盛り上がった。

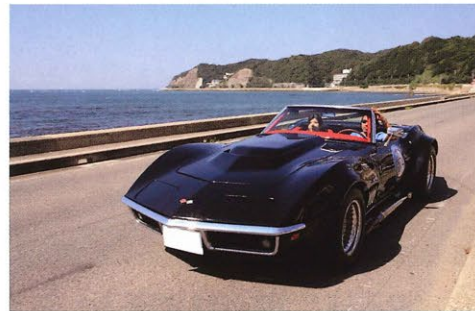
表彰式はビギナー・クラスとベテラン・クラスに分けて行われる。初めて参加した方にも楽しんでもらえるようにクラス分けされているもので、このような細かな心遣いが、参加者の心を捉えて離さないのである。

また手ぶらで帰さないのもこのラリーの特徴だ。上位入賞者や特別賞受賞者に豪華賞品が贈られるのはもちろん、参加者全員にゼッケン・ナンバーの付いた特製ワインが手渡された。

なお次回のヒストリックカー・ミーティングは記念すべき第10回大会となるだけに、より充実した特別な内容で12月6~7日に風光明媚な伊勢・志摩を舞台に行われる。参加申し込み締め切りは11月5日とされているのでお早めに。なおエントリー方法など詳細はホームページをご覧ください。●



カーフェリー「フラワーライン」は2014年9月末で廃止となるため、今回が名古屋クラシックツアーにとって最後の貸切運行となった。



ヨーロッパ車が多いと思われるこのツアーだが、幅広い車種のエントリーがある。シボレー・コルベットはC2とこのC3の2台が参加した。



エントリーは名古屋城二の丸駐車場に集合し、ここで受け付けを済ませたのち、ドライバーズ・ミーティングが行われた。



参加車はスタート地点となる長者町織維街に移動し、今年も河村たかし名古屋市長にスターター・フラッグを振っていただいた。



今回のハイライトは、ボルシェ904カレラGTSがツアーに挑み、その姿と4カム・サウンドを披露したことだ。



貴重なBMWイセッタの高性能版の600も参加。後輪がダブルの「4輪車」になることが、ペイシック版のイセッタ300との差異。



知多市研修センターでの4連続PCをこなしたあとは、伊勢湾岸道、東名阪を通りゴール近くの四日市ICまで移動した。



カーフェリーから渥美半島に上陸すると、地元観光協会から参加者に渥美半島特産のバラをアレンジした花束がプレゼントされた。



ヒストリック・ツアーで大人気のサンパ大会は、名古屋クラシックツアーでも用意され、参加者全員で大盛り上がりとなった。